



兵庫県立
芸術文化センター

文楽 in Hyogo

ぎ し め い め い で ん
義士銘々伝

や さ く か ま ば ら だ ん
弥作鎌腹の段

2021年7月7日(水) 2:00pm 開演

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

企画：河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター特別参与）

■第一部 【トーク】 「文楽の楽しみ方」

吉田和生 (人間国宝)

細川貂々 (漫画家・エッセイスト)

聞き手：岩城則子

■第二部 【文 楽】 義士銘々伝~弥作鎌腹の段

太 夫 竹本千歳太夫
三味線 鶴澤寛太郎

人 形	(弥 作) (七太夫)	吉田和生	桐竹勘介
		吉田玉男	吉田玉路
		吉田文昇	吉田和馬
		吉田玉佳	吉田玉峻
		吉田玉勢	吉田玉延
		吉田玉翔	桐竹勘昇
		吉田玉誉	吉田玉征
		吉田玉彦	吉田和登

【あらすじ】

摂津の国のとある村。女房とともに慎ましく暮らす実直な百姓、弥作のもとに、武家に養子に行った弟の和助が訪ねてきます。和助は赤穂の浅野家に仕えていましたが、主君が殿中において刃傷沙汰を起こし、お家がお取りつぶしになったため、今は浪人の身となっています。

ある日のこと、かつて世話になった郷土、七太夫から「地元の名士である代官が跡継ぎを探している、和助を婿養子にやらないか」ともちかけられ、弥作は、浪人の身の弟には願ってもない話だと承諾します。

ところが、肝心の和助は頑として首を縦には振りません。「このようなもったいない話を断るとはなににごとか」と怒り、理由を問い詰める弥作に、和助はしぶしぶ主君の仇である吉良を討つ企てを打ち明けます。

弟に本望を遂げさせたいという気持ちと、恩人である弥五郎への義理との板挟みになった弥作が苦悩の末に選んだ道とは…？

【新型コロナウイルス感染防止に関するお願いとお知らせ】

- ・必ず指定されたお席でご鑑賞ください。・ご鑑賞中も、常にマスクをご着用ください。マウスシールド不可。
- ・大きな声での会話はお控えください。・開演中に退出されますと、ご自身のお席へお戻りいただけない場合があります。
- ・終演時は、分散してのご退場にご協力ください。
- ・客席内は、強制換気システムにより常に外気との入れ替えを行っております。
- ・「兵庫県コロナ追跡システム」をぜひご利用ください。館内掲示のポスターよりQRコードを読み取ってご登録ください。

<プロフィール>

吉田 和生 人形浄瑠璃文楽座 人形

昭和 42 年 7 月 文楽協会人形部研究生となる。同年、現吉田文雀に入門し、吉田和生と名のる。昭和 43 年 4 月 大阪毎日ホールにおいて初舞台。平成 29 年 10 月 重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される。因協会奨励賞、文楽協会賞、国立劇場文楽賞文楽奨励賞、因協会賞、大阪文化祭賞、国立劇場文楽賞文楽優秀、芸術選奨文部科学大臣賞、愛顔（えがお）のえひめ文化・スポーツ賞、国立劇場文楽賞文楽大賞、兵庫県文化賞（伝統芸能）、第 30 回関西・こころの賞（特別賞）、第 53 回大阪市市民表彰、旭日小綬章 文化財保護功労、大阪文化祭賞<第一部門>等受賞多数

吉田 玉男 人形浄瑠璃文楽座 人形

昭和 43 年 吉田玉男に入門し、吉田玉女と名のる。昭和 44 年 4 月朝日座で初舞台。平成 27 年 4 月 大阪・国立文楽劇場において、二代目吉田玉男を襲名「一谷嫩軍記・熊谷陣屋の段」の熊谷次郎直実で披露。平成 27 年 5 月 東京・国立劇場において、「一谷嫩軍記・熊谷陣屋の段」の熊谷次郎直実で二代目吉田玉男を襲名披露。国立劇場奨励賞、文楽協会賞。因協会奨励賞、国立劇場文楽賞文楽奨励賞、府民劇場賞（奨励賞）、関西芸術大賞ゴールデン賞、因協会賞、国立劇場文楽賞文楽優秀賞、因協会賞、十三夜会推賞、伝統文化ポーラ賞優秀賞、国立劇場文楽賞文楽大賞、日本芸術院賞、八尾市文化賞、大阪市市民表彰、「関西元氣文化圏賞」、大阪文化祭賞、大阪文化祭賞<第一部門>、紫綬褒章等、受賞多数。

竹本 千歳太夫 人形浄瑠璃文楽座 太夫

昭和 53 年 四代竹本越路太夫に入門、昭和 54 年 4 月 竹本千歳太夫と名のる。昭和 54 年 7 月 朝日座で初舞台。平成 17 年 1 月 八代豊竹嶋太夫の門下となる。

文楽協会賞、因協会奨励賞、大阪文化祭賞奨励賞、国立劇場文楽賞文楽奨励賞、芸術選奨文部大臣新人賞、文化庁文化交流使に指名される。国立劇場文楽賞文楽優秀賞、国立劇場文楽賞優秀賞、大阪文化祭賞 優秀賞、国立劇場文楽賞文楽大賞、大阪文化祭賞<第一部門>、国立劇場文楽賞文楽大賞等、受賞多数。

鶴澤 寛太郎 人形浄瑠璃文楽座 三味線

平成 11 年 祖父である七世鶴澤寛治に師事、平成 13 年 1 月 鶴澤寛太郎と名乗り国立文楽劇場で初舞台。令和元年 竹澤宗助に師事。文楽協会賞、十三夜会賞、国立劇場文楽賞文楽奨励賞、大阪文化祭賞グランプリ、文楽協会賞、国立劇場文楽賞文楽奨励賞、咲くやこの花賞、国立劇場文楽賞文楽奨励賞等、受賞多数。

細川 貂々（漫画家・エッセイスト・イラストレーター）

1969 年生まれ。宝塚市在住。セツ・モードセミナー出身。1996 年、漫画家デビュー。パートナーの闘病を描いたコミックエッセイ『ツレがうつになりまして。』『イグアナの嫁』シリーズ（幻冬舎）は映画化、ドラマ化もされた。精神科医の水島広子先生との共著『それでいい。』シリーズ（創元社）は ベストセラーになる。自身の生きづらさと「べてるの家」などの取材を取り上げた『生きづらかったですか？私の苦勞と付き合う当事者研究入門』、近著は自身の非定型発達のことを描いた『空気が読めなくてもそれでいい。』子ども向けの発達障害の本『他の子と違うのはなんでだろう？』シリーズ（イラストとマンガを担当 平凡社）を上梓している。宝塚市中央図書館にて当事者研究「生きるのへた会？」を主催。